眞浦神父様　さようなら　お元気で！

島のひかり ホームページアドレス
http://lifeaidgoto.jpn.cx/simanohikari/

発　行
カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959㉓0072
印　刷・㈲才津印刷所

六年間、お世話になりました

主任司祭　眞浦　健吾

今、思うと六年間、アッ！と言う間でした。信徒の皆さんの協力を得て、いろんなことが出来たような気がしています。

一番の思い出は、堂崎天主堂百周年の記念事業を二年間かけて考え、すばらしい記念ミサが無事に終った時の満足感とほっとした安堵感です。当日は、朝に少し雨が降って、その時に本当にきれいな虹がかかりました。それを見て、神様の祝福と恵みを感じとれました。「神父になってよかったなあ。浦頭に来てよかったなあ」と思いました。その他、いろんなことがありますが、皆さんへの感謝しか今は浮かびません。私個人の都合や未熟のために、たくさんの方々に、迷惑やつまづきを与えたことが多くあったと思いますが、皆さんの愛の心で許して下さい。長崎カトリック神学院へ行きますが、神様の恵みに信頼して、少しでも、神学生が自分の目標に向って進んで行けるよう、手助けをして、たくさんの司祭が生まれるように頑張って協力したいと思います。これからもお祈り下さい。六年間、本当にありがとうございました。

人物往来

○神父様転出

眞浦健吾神父様
（長崎カトリック神学院）

○神父様転入

岩崎晋吾神父様
（水主（かこ）町教会・大村市）

○奥浦修道院

《転出》

古田　清子（小江原修道院）
田川　文子（桐修道院）
馬込えり子（十字修道院）

《転入》

浦　タエ子（浦上サンタマリアの家）
畑原　順子（上神崎修道院）
山下　千尋（初期修練院）

眞浦神父様 感謝のうちに

眞浦神父様は、持ち前の明るさと誠実な御人柄で浦頭小教区の全ての世代を勇気付け、教会を活性化させてくれました。

65才以上の世代は神父様発案のもとシメオン・アンナ友の会が発足し、子供達からは神学生・修道志願者も生まれました。

何より「堂崎天主堂建堂百周年」の大事業を、信徒との一体感のうちに成功させました。

一点の曇りもない青空のもとでの感動的な記念ミサは忘れられません。

百周年祭に向けての二ヶ月程は会議付けの毎日でしたが、神父様は資料のコピー等準備を整え私達を待っていてくれました。奄美や上五島での巡礼旅行も楽しい思い出です。

涙もろく人情味あふれる神父様との六年間を、小教区の信徒全員とともに感謝申し上げます。

岩崎晋吾神父様をお迎えして

長崎教区の聖職者の移動に伴ない、眞浦神父様も六年間の浦頭小教区での司牧生活を終え、長崎カトリック神学院の校長として栄転なさいました。

その後任として岩崎神父様が大村の水主町教会よりおいでになりました。神父様は長崎の飽ノ浦町出身で47才の若い神父様です。水主町教会での最後のミサは、葬儀ミサだったそうです。ところが浦頭に着くと、ここでも葬儀が待っていました。

四月三日、ミサの中で歓迎式を行ない、その後、新役員・旧役員の出席の中で評議会と歓迎会を行ないました。岩崎神父様のモットーは「人を愛する」ことだそうですので、皆さん愛される人間になれるよう頑張りましょう。これからの浦頭小教区の御指導を宜しくお願い致します。（二十年前福江教会の助任でした）

平成23年度　浦頭小教区評議会役員名簿

評議会会長（主任司祭）
岩崎晋吾

議長　竹山要司
副議長　鍋内誠次
書記　小田哲也
会計　浜口幸隆
　　木口利光

地区委員会
委員長　浦口成人
会計　濱崎孝信

	（地区委員）	（補佐委員）
浦頭	浦口成人	沼田百合枝
	中尾末隆	赤崎京子
大泊	梅木征至	梅木強
浜泊	浜口信行	江口初子
堂崎	入口義則	入口君子
嵯峨瀬	谷口英子	
宮原	大楠進	大楠末子
半泊	濱崎孝信	

経済問題委員会
（堂崎天主堂保存委員会）
委員長　赤尾一美
会計　木口利光
　　鍋内誠次
　　小田洋市

壮年会
会長　浦口一三
副会長　浜崎国幸
書記会計　鍋内清

シメオン・アンナ友の会
会長　山本哲巳
副会長・書記　富上静枝
会計　小田末利

青年会
会長
副会長
書記会計

婦人会
会長　鍋内初恵
副会長　入口つるみ
書記会計　川口富子

信仰教育委員会
委員長　川口護
副委員長　川口孝章
会計　赤尾健野
委員　小学校　大浦輝
　　中学校　谷尾梅吉
修道院長　Sr竹口菊美
カテキスタ　Sr松崎（小１、２年）
　　Sr藤原（小３、４年）
　　Sr白浜（小５、６年）
　　岩崎神父様　堅信組（中１）

典礼委員会
委員長　本村義則
副委員長　小田哲也
委員　山本一夫　浜崎和利
　　浦口一三　浜口幸隆
　　川口秀子　赤尾克子
　　江口初子
　　（**聖歌担当**　浜崎毅）

広報委員会
委員長　竹山要司
副委員長（島のひかり編集長）　木口重憲
会計　赤尾淳
委員　浜崎松一　木口武雄
　　竹山巧　入口信
　　浜崎クニ子　江口初子

中村長八神父様の列福調査について

昨年の12月15日（水）、ブラジルのアウバラスマシャドにおいて、中村長八神父様のお墓が教会法に則って開かれたとの報告が現地のナガヤマ神父様より（浜口吉隆神父様を介して）届きました。

『12月14日、バスでサンパウロからアウバラスマシャドへ。サンパウロからは日伯司牧協議会々長山本いさお神父、カリタス修道会シスターとパラブの事務所で働いておられる方、それに私の4名でした。アウバラスマシャドから2台の車で、中村神父様終えんのカペラに。そこでミサがありました。ミサの後、アウバラスマシャドの教会で主任神父と会い、その後、青木神父や教会法専門で列福運動の責任者を交えて会合がありました。

当日は11時から墓地に向かい、墓地に着いてみますと、時間が長引かないように、墓の入口が開けてありました。参列者は50名位だったでしょうか。中村神父様の遺骨を取り出し、万事とどこおりなく終わりました。

遺骨については、土は別の入れ物に入れ、用意していたプラスチック製の箱の下に白い布を敷いて、遺骨と共にまたもとの墓に入れて、セメント・レンガで閉じて、12時頃終了しました。

そこに居合わせた神父はパニブ会長、列福運動責任者ルーベンス神父、青木神父、アウバラスマシャドの神父、それに私。他はわかりませんでした。

次は私見になりますが、私たち日系人にとって偉大な宣教の先駆者の（教会法に則った）調査に50名前後の参列者だったことは、深く考えさせられました。もしも、ブラジル人であったならば、参列者でうずまっていたと思います。でも、これが神父様のご意向だったと思います。

もう30年以上も前になりましょうか。あるブラジル人老神父（今は故人）が中村神父を知っているというので、その話をうかがいましたら、「彼はブラジル語をよく話さなかった。」という返事でした。「他の事は殆んど知らない。」と申しました。この返事の中に私は中村神父様が経験された外国人宣教者としての困難を思いました。でも、これは私の経験から通してみた純個人的意見です。

私は許可をいただいて、中村神父様の遺体の近くにあっただろうと思われる土をいただいてきましたが、それを中村神父様から初聖体をいただいた方（88才）に見せましたら、「なつかし〜い」といいながら、それにセップンしました。出津・黒崎出身で幼児移民です。また、奈良尾出身の方もおられますが、その方の所にもよく泊まられたそうです。3月の命日の頃のミサには、この土を使おうと思っています。

以上が12月15日、私が参列した中村神父様の列福調査の私なりの報告です。

訂正しなければならないことがあります。中村神父様の遺骨についていた土の袋が、遺骨と共にプラスチックの箱に入れられたかどうか、私はよく見ておりません。その土は中村神父様が福者か聖人になられたとき、聖遺物として配布されるとルーベンス神父が言ったのは聞いております。』

お見舞い申し上げます

このたびの「東北地方太平洋沖地震」によって甚大な被害を受けられた皆様、そしてご家族の方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興と心の平安の回復をお祈り致します。

今年の黙想会

今年は眞浦主任神父様が、長崎カトリック神学校の校長として栄転が決まった為、主任神父様のご指導による黙想会でした。

3月9日から11日までの3日間で行なわれ、6年の間、小教区で感じた事を話された。

長崎教区は伝統として四旬節に黙想をし、共同体を表す。ゆるしの秘跡を受けて回心する。

灰の水曜日と聖金曜日には、大斎・小斎を守る。神は完全であるから、私達は完全なものに向かって行ってほしい。すべての人がパウロのようになってほしい。教会・小教区は信徒の物で、司祭の物ではないが、信徒が教会の教えに外れていれば、司祭が正す必要がある。

神を信じる事が信仰である。信仰を表わす事が教会である。浦頭は青少年のミサ参加があり、他の教会では余り見られない。信仰をしやすい様に、日本の司祭団は考えて祈りを変えている。

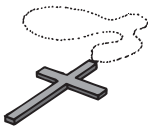
イエス・キリストを黙想する事、愛と希望を信じる一つの教会、愛の技を実践する。愛とは何か？十字架上のキリストを眺めればわかる。そこに愛がある。全信徒の愛を合わせてもキリストの愛には勝てない。キリストの言葉を述べ伝えなさいと言われても、なかなか出来ない日本の教会の現実がある。

最後に信仰の原点である、守るべき事柄を書いたカトリック教会祝日表を手元に置いて目を通し活用してほしい。

教会の年号は西暦を使う。

主日と祝日のミサ聖祭及び労働の許可について、聖体拝領について、大斎・小斎について、教会維持費について、神学生養成援助費の献金について、そして、今一番危機感を思うこと、移動信徒について、転出する信徒は主任司祭に申し出、「転出証明書発行願い」を提出すること。転出先の所属教会主任司祭に「転出証明書」をすみやかに提出すること。「転出証明書」を紛失した移動信徒は、口頭で転出先の教会主任へ申し出ること。転出・転入の通知は所属教会が変わる度に行なうよう義務づけられている。今、改めて考えさせられる三日間でした。感謝のミサでは、壮年会三名による侍者奉仕のサプライズにびっくりしたが、将来こんな日が来ると思う。

眞浦神父様、お疲れ様。そしてありがとうございました。



おやじ侍者

浦口　成人

ある熱心な熱心な典礼委員の勤めの話に、老眼等により典礼は出来ないと話していると、子供侍者が少ないので侍者をやれ、最初は、「黙想の感謝ミサ」と主任神父様の鶴の一声でした。

黙想までは、なかなか決心が着いていませんでしたが、黙想の話により観念してしまったおやじです。感謝ミサの入場が始まると失笑が漏れていましたが、三人の親父は緊張と共に真剣でした。ミサ中の聖変化になると、子供の頃、普通のパンがキリストの体になる要理の勉強を思い出した後は、近年忘れかけていたミサ聖祭にあずかる気持ちが、一新された気持ちでした。ミサ聖祭終了後の主任神父様の笑顔に、三人の親父も達成感と感謝の気持ちがありました。初回に、この様な冒険的体験をさせてくださった小教区の親父には、三人のおやじ、ただただ感謝!!

奥浦のキリスト教遺産群（V）

浜泊の潜伏キリシタンからカトリック復帰初期の家族墓地

長崎ウエスレヤン大学講師（非常勤）
加藤久雄

18世紀末以降、大村領から渡った3000人ともいわれる潜伏キリシタンは、五島各地に分散し住み、祈りと開拓の日々をおくっていた。2009年に江口初子さんから「うちに古いお墓がありますよ」と聞き、早速確認させていただいた。一般に、五島キリシタンの潜伏期の墓地は集落ないしは家族墓の形態をとる。明治初期の信徒復活期にも同様の墓地の形態をとるが、五島列島では1900年前後になると盛んに教会墓地が、パリ外国宣教会の長崎司教によって祝別され開かれる。当時の教えが厳しかったため、カトリック復帰前の洗礼の有効性が確かめられないことを理由に多くの潜伏期の先祖の墓は、司教によって祝別された教会墓地に移せなかったのである。江口さんらの思いでようやく、前任の眞浦神父様によって近年、やっとこの墓地が祝別されたのである。

さて、江口さんに調査させていただいた墓地には、20基ほどの石積の配石墓と数基の大正期の墓碑が確認できた。ある墓碑に刻まれた、死亡年代を確認したところ、とても驚いた。天保13（1842）年8月死亡とあったのだ。江口さんの先祖からの言い伝えによると、「孫の代に当たる方が、先祖の埋葬位置を知っており、そこに石碑を建てた」とのことだった。実際に、石碑の下には石積が残っている。実際に、多くの石積の配石墓が正方形の区画に人頭大の石を積んでおり、五島各地にみられる潜伏キリシタンの墓といわれるものと同じ形態のものである。

潜伏期において死亡年代や被葬者名のわかる墓碑は、五島列島では非常に希少である。多くの潜伏時代の家族墓地が知られない中、潜伏期からカトリック復帰初期の様相がよくわかるこの墓地、『史跡』は、いつまでも大切にして欲しい五島キリシタンの近世文化遺産である。

近世の死亡年代が刻まれる江口家の墓碑

潜伏期の石積の配石墓

秘跡

○堅信おめでとう　一月三〇日

フランシスコ・ザビエル
川口良平　父・孝章
母・真佐代（浦頭）

フランチスカ
浦口千愛　父・一三
母・千鶴子（浦頭）

カタリナ
浜辺　恵　母・真美子（浦頭）

○洗礼おめでとう

三月六日
使徒ヨハネ　入口瑛翔（エイト）
父・信（マコト）　母・理恵（堂崎）

三月二十六日
テレジア　平田葉月（ハヅキ）
父・淳一郎　母・美江子
（新港町）

○永遠のやすらぎを

二月一日
ミカエル　田端弥五八
82才（浦頭）

三月三十一日
マリア　濱口希世子
56才（浜泊）

シスター志願者誕生

最近、シスター志願生が遠のいていたが、この度、南河原の鍋内佳奈さん（父・誠次）が、お告げのマリア会に志願生として四月六日、長崎に旅立った。佳奈さんのためにお祈り下さい。

ありがとう

五つの文字の言葉で、こんにちは、こんばんわ、ありがとう、さようなら、がんばろう、日本語のすばらしさに感心します。「島のひかり」への御協力ありがとうございます。

新しい神父様を迎えて、編集部一同、はりきって頑張ります。

大阪市　松尾義則様
名古屋市　浜口吉隆神父様
長崎市　浜口末明神父様
長崎市　佐々野美井子様
福江　赤尾輝幸様
長崎市　加藤久雄様

移動信徒の集い

三月十四日、夢と希望を抱き、浦頭小教区を後にする六名の若者の激励会が行われた。

最初に眞浦神父様よりお祝いのことばが述べられ、子ども達ひとりひとりにもこれからの豊富、夢を語ってもらった。大学に進学するもの、ひとあし先に社会人となるもの、シスターを志願するものなど、さまざまだが、自分の将来のビジョンをしっかりと語る子ども達の成長に微笑ましくもあり、親の…自分の手元を離れていくことの寂しさをも感じながら、中には涙ぐむお母さん達の姿も見られた。

これからは自分で選んだ道を自分の力で生きていくことになります。今日、神父様や役員の方々、両親に頂いた言葉を胸に精一杯頑張ってきて欲しい。そして、何処に行っても信仰の心を忘れないように。

後列左から田端菜摘、鍋内佳奈、谷尾真衣、木口未優
前列左から小田松広、竹山靖也

全信徒のための典礼研修会

二月六日、福江教会にてお話をしてくださった方は、日本カトリック神学院の典礼講師、宮越俊光さんでした。

集会で始まり派遣に終わるミサ典礼について、ミサに参加すること、参加した人たちそれぞれに何かの「奉仕」の役割があるはずです。人々が集まって「教会」（それは建造物ではない）になります。パンとブドウ酒の捧げものは、過去の記念として捧げているのではなく、今そこに主がおいでになる。主がいらっしゃいます。又、御聖体拝領では、拝領することにより共同体の一致聖霊の力を受けて行なわれています。次に、いつも唱えている「アーメン」について、この言葉は、何かの祈りのあとに唱えるものではなく、「信仰宣言」をする言葉です。もっと大切にしましょう。

まだたくさんのお話がありましたが、私の心に残った言葉でした。

これからの生活で生かしていけるよう努力しようと思っています。ただ残念に思ったのは、素晴らしいお話を聞く絶好の機会だったのに、参加する人たちが少なくて淋しかったです。

典礼委員長　**本村　義則**

講話をする
宮越俊光氏

堅信式を終えて

堅信式は今年から下五島全部の教会でやることになり、どんな風になるのか不安や緊張がありました。式中には大司教様からの話もあり、稽古では聞かなかったようなことを直接聞けてとてもいい経験にもなりました。

毎週、土曜日の四時からの稽古は、時間帯や曜日からして遊びたい気持ちもありましたが、風邪を引いたりしない限りはちゃんと通うことが出来ました。最初は三人だけの稽古でちょっと寂しくもあったけど、眞浦神父様との稽古は毎回楽しかったです。これからも毎朝、ミサに通いたいと思います。

浦口　千愛

堅信式は、大人の信者になるための大切な式なので、最初は緊張していました。でもだんだんなれてきて、ミサでは司教様の話しなど、いろいろなことがありました。霊名も変わってカタリナからベルナディタになりました。前までやっていたけいこは、毎週土曜日あって嫌だったけど、友達と話しをしたり、神父様と勉強したりして、とても楽しかったです。

これからも、ミサにはちゃんと参加したいと思うし、いろいろなことをがんばりたいです。

濱邊　恵

まず、堅信式を終えることができたのは、二年間ずっと僕達に教えてくれた神父様のおかげだと思います。

けいこには最初のころ、たまにサボることもありました。だけど、堅信式の大切さもだんだん分かり、毎週行けるようになりました。

堅信式では、初の合同だったので少し緊張しました。そして、堅信式も無事終わりました。

これからは、また一つ成長するため、いろんなことに挑戦して行きたいです。

川口　良平

おたより

いつも温もりのある記事満載の「島のひかり」をお送りいただき、有難うございます。

記事集め、原稿書き、編集、校正など、地道な作業の積み重ねは、携わった人でないとわかりません。本当にご苦労様です。

聖ルドヴィコ神学院
浜口末明神父様

先人達が本当に苦労されて「島のひかり」を創刊され、現在の編集部の皆様方が、その伝統と使命感を全うされ全国津々浦々に、送付して頂いている事に心から敬意と感謝を申し上げます。教区の出来事を知り、そして励まされ、まさに継続は力なりとの言葉そのものだと思います。

北九州市　赤尾　寛悦

常日頃のご無沙汰をお許しください。今日は浦頭小教区の皆さんにとっては朝報をお伝えしたいと思います。「ブラジル日本移民の使徒」と呼ばれている、ドミンゴ・中村長八神父様の列福調査が行なわれました。

神言会　浜口　吉隆神父様

いつも「島のひかり」お送りくださいまして、ありがとうございます。

八王子市
純心聖母会八王子修道院
Sr　浜口　昌子

ふる里だより

『奥浦港に新船 フェリーひさか入港』

三月二十日、旧船フェリーひさかに更に鮮やかさを増した同名の新船が就航した。総トン数百五十五屯、バリアフリー化され、より優しく、快適な居住空間を提供してくれる。なお、旧船は遠くフィリピンに向かい、新天地での第二の人生を送る事になる。

色鮮やかな新船フェリーひさか（福江港にて）（赤ピンク）

『想いを襷（たすき）に連ねて』

濱崎　毅

濱崎毅さん（区間賞獲得）から鍋内秀喜さんへの襷リレー

一月三十日に五島市民駅伝大会が行われました。私は奥浦男子Aチームで今年二回目の出場でした。今年の個人目標は、走り終えた時に少しの余力も残らない走りをする事でした。昨年の反省をふまえ、完全燃焼するための走りを追求し、結果、後悔のないタイムが出せましたが、来年も参加する事が出来れば、今度は満足出来るタイムが出せるようチャレンジしてみたいと思います。皆の思いをひとつの襷に繋げ走り抜く駅伝は、本当に苦しいけど楽しいスポーツです。

『大豆川に遊ぶ』

二月十一日、浦頭の小川（通称大豆川）において、準絶滅危惧種に指定されている松笠貝の放流・EM（川の浄化を助ける菌）ダンゴ投入が子供達十五名を集めて行なわれた。事業は、子供教室と民生児童員主催で、あぶんぜビジターセンターの出口（でぐち）敏也さんと川の生物に詳しい出口康士（いでぐちやすし）さんの説明を受けた。

合わせて行なわれた川の観察会においては、子供達は夢中で川の生物を追い、捕った。なお、今年は一昨年から続けられたEMダンゴの投入の効果が現われ始めた事を受け、蛍鑑賞会も予定されている。

編集後記

例年よりも寒い冬が終り、教会は委員改選の年でもあり、慌ただしく、集まりを重ねている。その委員も決まる頃、眞浦神父様の移動が決まった。

6年間の活躍を振り返りながらの送別会、一人づつの言葉が別れを惜しんだ。

中でも、健康に注意してくださいの言葉が多かった。

代りに、四月一日に岩崎神父様を迎えて、新しい浦頭小教区がスタートした。信徒の数も少なくなり、その中でも小学生が男子4人、女子4人となった。その8人を侍者にするという神父様の報告がなされた。

これからの岩崎神父様の活躍で、浦頭、堂崎、宮原、半泊、それぞれの教会がますます元気になって行くと思います。

共に努力して、これからも頑張りましょう。

小田　洋市